



葬送と墓制の現在

□オンライン開催

死生学研究所ホームページから
お申込みください

□お申込み締め切り

2024年6月26日(水) 17時

□先着 100名様

□お問合せ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

□参加費 無料

第2回連続講座

金セツピョル

総合地球環境学研究所
研究基盤国際センター

(キムセツピョル)

客員助教

6月29日(土)

16:20-17:50

自然葬の登場、

その背後にあるもの

■プロフィール

韓国から留学、総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程修了。文学博士(2016年)。専門分野は文化人類学、葬送儀礼研究、映像人類学。

■主要業績

著書に『現代日本における自然葬の民族誌』(2019、刀水書房)、地主麻衣子との共編著に『葬いとカメラ』(2021、左右社)など。

内容紹介：

日本では1990年頃から、いわゆる「先祖代々の墓」以外の選択肢が増えてきました。自然葬、つまりお墓をつくらず、遺灰を海や山に撒く葬法もその一つです。自然葬が登場した背景としては「わざわざ墓を買っても継ぐ人がいない」「迷惑をかけたくない」という理由がまず思い浮かびますが、それだけではありません。本発表では、自然葬を提唱した「葬送の自由をすすめる会」を中心に、それが戦後の社会運動の一環として登場した背景について報告します。

一方、一言で自然葬と言っても、遺灰をどこにどれくらい撒いて、どのように追悼するかは、一様ではありません。本発表ではその多様性の背後にある死生観について考えます。

Annual
of the Institute
for Life and Death Studies,
Toyo Eiwa University

死生学年報

●看取りの文化を構想する

2024

東洋英和女学院大学
死生学研究所編



LITHON

東洋英和女学院大学死生学研究所編

死生学年報2024

「看取りの文化を構想する」

◆書店にて定価2,500円+税でご注文、ご購入いただけます

◆お問い合わせ 東洋英和女学院大学 死生学研究所

shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

<予告>

◇第3回<公開>連続講座 7月20日(土) 16:20~17:50

Hannah Gould (メルボルン大学P.D.Fellow,

2023年にシカゴ大学出版会より *When Death Falls Apart* を刊行)

お申込みはこちら

